

# 共生レポート2017



原爆の残り火を携え、京都市上京区のバザールカフェを出発する本岡さん

原爆の残り火を自転車で運び、各地でチャリティーアイベントを開く「アースキャラバン2011」は8月31日、京都を出発した。9月9・10両日に開いた東京・江東区の木場公園でのイベントに向け、被爆2世の本岡晃浩さん（30）が約500歩を走った。

主催するNPO「アースキャラバン」（京都府）代表の遠藤暁及・淨土宗和田寺住職（島根県益田市）の呼びかけで、終戦70年を機に始まった。2015年夏、広島原爆の残り火とされ、福岡県八女市星野村で灯され続

日本、オーストリア、カナダの各国と現地の約60人がイスラーム、ユダヤ教、キリスト教、仏教の合同慰靈祭を執行。翌7日にエルサレムで平和進行を行つた。

現状を知ってほしいと訴える。現在、水に混じる塩をろ過する浄水器を設置し、飲用水を確保するプロジェクトを開発中だ。資金の130万円を集めている。

チャリティーアイベントでの寄付金は、国内外の助けを必要とする人へ贈られる。パレスチナの障がい児施設や内戦に巻き込まれたシリアの困窮する人々、ストリートチルドレンを支援するルワンダの教会、ネパール地震、熊本地震の被災者な

このほかにも  
2006年から  
続いているの  
が、バングラデ  
シユの少数民族で仏教徒  
のラカイン族への教育支  
援だ。子どもたちが進学  
できる環境を整えよう  
と、現地に小学校を建設。  
現在4校を運営する。賛  
同者の「里親」を国内で  
募り、年間80万円以上の  
支援を行っている。  
「パレスチナが自由に  
なるまで続ける」。一時

的な支援にとどまる。外国人の活動に落胆するパレ・スチナ人との約束からアースキヤラバンは始まつた。「欲しいのは金じゃない。世界の人に現実を知つてほしい」。そのパレスチナ人の言葉が胸に残る。遠藤住職は「無関心が、世界で起こっている不幸の原因ではないか。

## パレスチナに浄水器を

アースキャラバンで呼びかけ

村山には明治維新の神仏分离まで富士山興法寺が機能をしていた(現、大日堂と村山浅間神社)。同寺は近世からの富士講よりも古い中世から聖地であり、修驗者やらの聖地であり、修驗者や富士道者の入峯拠点であつた。そして富士山頂の大日堂は興法寺が管理していく



## 札打場跡のケヤキ

みどりな杉の植林地帯を  
進んでゆくと札打場跡に着  
いた。ケヤキの巨木が周囲  
の植林風景とは対照的に森  
史と自然そのものを感じさ  
せる。その根元に修行の成  
就を祈つて碑伝を置く。中  
央に不動明王、右に八大天

るにいたがかつてに建  
があつたことを容易に想像  
ができる。事実、1907年  
(明治40) ごろまで茅葺  
根の社殿や馬立て小屋な  
が建つており、杖小屋もよ  
つて堂守の社人が雜木の山  
を登拝者に交付していた。  
そのうち社殿や小屋は朽り

像年生とあれに校。ち。947年東京生まれ。大学卒(宗教学専攻)。フオトジャーナリスト、日本写真家協会会員。現代宗教、カルト、山岳信仰、民俗宗教、宗教と政治など宗教取材に従事。近著に『修行と信仰』『カルト宗教事件の深層』がある。

